
神神の遊び

真逆 妖介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神神の遊び

【Nコード】

N1161N

【作者名】

真逆 妖介

【あらすじ】

ある日ある街で一人の青年はある女性と会い恋をするがしかし、彼女はなんと神様の一人だった。

出会い

日差しが雲の隙間から少しだけ見える、雲行きが怪しくなってきたみたいだが今日は折りたたみ傘も置いてきてしまった、雨にだけは降られたく無い、急いで帰ろうと歩幅をいつもより大きくした。

日が落ちてきたら晴れてきて雨には降られず助かったが、代わりにもっと大きい物が後頭部に降って来た。

人だった、しかも羽の生えた以外と可愛い女の子だが何とも珍しい服装をしていた。

体に布を巻いただけに見える服はまるで昔のどこかの神話の神様だ。

顔は幼く見えるが体つきはそれなりに………というか十分に発達しすぎと言える。

とりあえず自分の頭を押さえながらその女の子に近寄り体に触れてみた

白くやわらかく温かい肌に自分の指がまるで吸い付くような感覚だ。

「おい、おい」

「……………」

肩を揺らしてもはつきりとした反応が無い、この場合は警察を呼ぶべきだろうか？

「ほらほらお巡りさん、あの人よさっきから女の子の肩触ったりしてたの」

近所のおばさんらしき人が警察を呼んでいるが少し状況が良く無いようだ。

・・・・・・逃げよう

一瞬の判断で女の子を抱えた。お姫様だっこの状態で家までの長い帰路を夢中で全力疾走していた。

気が付けば警察は遥か向こうにいる、

「この角を曲がれば・！」 「きゃっ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1161n/>

神神の遊び

2010年10月22日00時10分発行